

TOPIX等の見直しの現状と今後の予定について

三浦 崇宏

目 次

1. はじめに
2. 当社指数に係るこれまでの主な取組み
3. TOPIX等の見直しについて
4. おわりに

わが国株式市場を代表する株価指数の一つであるTOPIX（東証株価指数）は、これまでも指数としての連続性を維持しつつ諸対応を進めてきた。本稿では、それらの取組みについて振り返るとともに、2022年から開始したTOPIXの投資対象として機能性の強化に向けた見直しの全体像などについて解説する。

1. はじめに

TOPIX（東証株価指数）は、1969年7月1日から算出・公表を開始し、わが国株式市場全体の値動きを示す株価指数として、日本経済新聞社が算出・公表する日経平均株価と並んで広く利用されている。その用途は、単に「市場の体温計」としてリアルタイム（注1）の株価動向を把握するのみにとどまらず、投資に際してのベンチマークとして、加えてETF（上場投資信託）や年金信託などの投資対象として利用されている。2023年3月末時点のETFおよび年金信託によるTOPIX連動運用資産残高は約83兆円にのぼり、これに国内外の非上場投資信託などの残高を加えると、

多額の資産がTOPIXに連動して運用されている。

本稿では、(株)JPX総研（以下、当社）が進めるTOPIXをはじめとする指数の見直しに係る現在地と、今後の予定について概説する。なお、本稿の内容のうち意見にわたる部分は筆者個人の見解であり、筆者の所属する組織の公式見解ではないことを申し添える。

2. 当社指数に係るこれまでの主な取組み

(1) 浮動株時価総額加重型指数への移行

TOPIXは、(株)東京証券取引所（以下、東証）の旧市場第一部全体の値動きを示す統計指標とし



三浦 崇宏（みうら たかひろ）

(株)JPX総研インデックスビジネス部長。1998年上智大学法学部卒業。1998年4月東京証券取引所入所。審査部総務企画グループ課長、(株)日本取引所グループCEO秘書役などを経て、2022年4月から現職。